

富谷高校だより 第55号

発行：宮城県富谷高等学校

〒981-3341 黒川郡富谷町成田 2 丁目 1 - 1

平成27年12月22日発行

TEL 022-351-5111

FAX 022-351-5112



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



Member of
UNESCO
Associated
Schools

「想像こそが未来と自分を変える」 ～ 国際理解講演会 ～

世界的なスケールで活躍している方を招いて毎年実施している「国際理解講演会」が、10月30日（金）午後開催されました。今年の講師は、「認定NPO法人テラ・ルネッサンス」の設立者・鬼丸昌也さんです。鬼丸さんは2001年に同団体を立ち上げ、カンボジアでは地雷除去を、ウガンダでは元子ども兵の社会復帰を支援するなど、世界平和に向けた活動を推進されてきました。本校では3年前に続き、2度目の講演です。鬼丸さんのお話は、生徒の心に強烈なインパクトを残しました。生徒の感想を紹介します。



子ども兵の存在は知っていましたが、詳しいことは知らなかったのととても驚きました。国によって貧富の差があるとはいえ、だからといって幼い子どもに残虐な行為を強いることは、絶対あってはならないと改めて思いました。自分にできることを1日の少しの時間でも考えていけるよう習慣にしていきたいと思います。（1年女子）

こんなにも平和について考えたことはなかったと思う程、とても感動した講演でした。同年代の子たちが兵に出されてた皆さんのつらい思いを抱えていた時間、私は何をしていただろうと考えさせられました。（2年女子）

講演中、涙が止まりませんでした。（2年女子）

自分はもう受験先を決めてしまったけれど、1・2年の頃にこの話を聞いていたら、また違った選択をしていたかもしれないと思いました。どこへ行っても、自分にできることを精一杯やれる人間でありたい。（3年女子）

人は人の言葉で救われることが必ずある、という鬼丸さんの強い言葉がとても印象に残っていて、自分も今日から少しずつでもできることを始めなくては、と思いました。（3年男子）

たくさん素敵な言葉が聞けて良かった。受験勉強が大変で、心が折れそうになる時もあるけど、将来誰かを助けることができるように頑張ろうと思います。（3年女子）

部活動紹介

来年度の県総体に向けて、運動部は冬季トレーニングに励んでいます。どの部も地道に頑張っていますが、今回はその中から2つの部を紹介します。

卓球部

まずは2年7組脇山雄太さん（将監東中出身）から一言。

こんにちは、卓球部です。卓球部は現在、男子8名、女子4名で活動しています。新人大会では男女ともに県大会出場。さらに、ダブルスでは男子が県ベスト8。シングルスでは、2年の石橋豊（住吉台中出身）が県ベスト8と大躍進しました。私たちは顧問の先生の指導のもと、毎日熱心に練習に取り組んでいます。私たちの目標は、団体で男女ともに県ベスト8に入ることです。応援よろしくをお願いします。

卓球部には「とみやあじ」という ^{こころざし} 志 があります。

- と トーク（私語）を慎み練習する
 - み 自ら率先して準備・片付けをする
 - せ 休まず毎日練習する
 - あ 明るく元気に声を出す
 - り 自分がしてほしいことを部員にする思いやりをもつ
- 今日も卓球場には、部員の元気があふれています。

弓道部

広いグラウンドの西隅に建つ弓道場で、33名の部員は毎日練習に励んでいます。部として大事にしていることは「礼儀」。挨拶はもとより、身だしなみも常に心がけています。本校には今年、2年生にブラジルからの留学生が通学しています。彼女は、日本の文化を体験したいという理由から弓道部に入部しました。日常の様子を、2年4組太田瑠奈さん（成田中出身）にうかがいました。

最初は言葉の壁があり、基本の動作や用語を覚えることが大変そうでした。しかし、わからない部分は何度も聞いたり、繰り返し練習したりして、今では他の部員と変わらないくらいに上達し、一緒に大会にも出場しています。日を追うごとに部員たちとのコミュニケーションも増えてきて、熱心に部活動に取り組んでいます。一緒に部活動を行える時間は限られていますが、残りの時間を楽しんでもらいたいです。

当面の目標は、年明けに行われる東日本大会の予選突破。留学生は2月には日本を離れます。思い出をともにできる時間もあとわずか。部員一同、心を合わせて本戦出場を目指しています。

修学旅行報告

12月3～6日（国際コースは2～6日）にかけて、2学年の修学旅行が実施されました。コースごとにテーマを設定し、人文コースは長崎方面で「平和学習」、国際コースはシンガポール方面で「異文化理解」、理数コースは関西方面で「環境・科学」について

学びました。各コースの代表生徒に、一言ずつ感想をいただきました。

人文コース

私たちはこの4日間の修学旅行で、長崎の多くの歴史に触れ、学ぶことができました。その中でも私が印象に残っているのは、原爆資料館で聞いた被爆者の方による講話です。戦争の歴史を語れる人が少なくなっている今、私たちが平和についてよく考え、その方々の思いをしっかり受け継がなければいけないと感じました。

【小林陽和さん(成田中出身)】

国際コース

私は修学旅行先のシンガポールで、日本と違う文化に触れ、普段はできない体験をしました。国境を越えて訪問したマレーシアの「ホームビジット」は、言葉の壁を越えて現地の方々と交流する経験をすることができました。友達やクラスの人との仲がさらに深まった、楽しく思い出に残る修学旅行にすることができました。

【笠原景都さん(将監中出身)】

理数コース

3泊4日の修学旅行を通して、私は多くを経験し学び、仲間との交流を深めることができました。関西という見知らぬ土地で仲間たちと力を合わせて行動し、さまざまなことを共有した体験は、今後生きてくると感じました。東北とも関東とも異なる文化を体験することで、自身の視野を広げて物事をとらえるきっかけにもなったと思います。

【加藤郁也さん(富谷第二中出身)】



第1学年キャンパスツアー

11月11日(水)にキャンパスツアーが行われました。今年度は、1年生全クラスで山形大学を「体験」しました。人文・国際コースは「小白川キャンパス」、理数コースは「米沢キャンパス」を訪問し、施設見学のほか、模擬授業も受けました。初めて大学を訪問して感じた印象を、ひと言寄せていただきました。

〔小白川キャンパス〕

私たちは今回、山形大学へキャンパスツアーに行きました。そこで印象に残ったのは、大学の先生方による講義でした。その講義はとても面白く、もっと学びたいと思える内容でした。自分が将来どの道に進むかを考える上で良い経験となりました。

【3組・渡辺ゆきさん(台原中出身)】

〔米沢キャンパス〕

私はキャンパスツアーで「流体力学」について研究している先生の話の話を聞きました。大学に入学すれば、どういったことを学ぶことができるかを知ることができて、とても参考になりました。今回学んだことを糧にして、これからも頑張ろうと思います。

【7組・川内谷優万さん(富谷第二中出身)】

第2学年模擬授業

キャンパスツアーと同じ11日、2年生は模擬授業を行いました。宮城大学や東北学院大学などから12名の先生方をお招きしました。調査研究の進め方をレクチャーいただいたあとで、それぞれの先生方の専門分野について講義をしていただきました。今後さらに研究を深め、1月の発表会を迎えます。

卒業生から作家が誕生!!

本校の卒業生(6回生)が作家デビューしました。筆名は「白洲 梓(しらす あずさ)」さんです。集英社主催「2015ノベル大賞」で最高位の「大賞」を受賞されました。書名は『最後の王妃』。すでに集英社コバルト文庫から出版されています。あとがきには、小説家を志す遠因ともなった本校在籍中の感動的なエピソードも紹介されています。卒業生の活躍に、心からのエールを送ります。皆さん、応援しましょう！

